

ごみの減少肌で感じる

新宮市 城南校区クリーン作戦

新宮市立城南中学校(中田善夫校長)生徒会と城南地域共育コミュニティ本部は4日、「城南校区クリーン作戦」を実施した。全校生徒171人と教職員が15班に分かれ、各ルートでごみ拾いに励んだ。毎年恒例の地域貢献活動。例年は王子ヶ浜小学校児童や地域住民を含め約500人が参加するが、本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中学校のみ



溝に落ちたごみを拾う＝4日、新宮市

で開催した。

王子ヶ浜小学校や西村記念館、阿須賀神社、大浜レクリエーションの森などを出発した生徒たちは、空き缶やペットボトルの他、ポイ捨てされた菓子袋やたばこの吸い殻などを回収していった。浮島の森からファミリーマート新宮緑ヶ丘店前を通って中学校へ帰るルートを歩いた木村こころさん(2年)は「JR



ポイ捨てごみの多かったJR線路沿い

線路沿いなどにはたくさんポイ捨てされたごみがあったが、昨年と比べて量が減ったように感じる」と話していた。

作戦終了後、中田校長は校内放送で「校区をきれいにするのは、自分たちの心をきれいにすることと同じ。これからも大事な活動としてクリーン作戦を続けていきましょう」と呼び掛けていた。

(石田幸子)